

会社概要・CSR経営

会社概要・CSR経営

横浜ゴムグループの紹介およびCSR推進に関する考えや体制をご報告します。

▶ 横浜ゴムグループの概要

▶ 企業理念・横浜ゴムグループのCSR

▶ 製品紹介

[ページTOPへもどる](#)

横浜ゴムCSRサイト TOP > 会社概要・CSR経営 > 横浜ゴムグループの概要

会社概要・CSR経営

横浜ゴムグループの概要

企業理念・横浜ゴムグループのCSR

製品紹介

会社概要・CSR経営

横浜ゴムグループの概要

横浜ゴムグループの概要（2011年3月31日現在）

会社名	横浜ゴム株式会社
創立	1917年10月13日
資本金	389億9百万円
売上高	5,197億4千2百万円（連結）
決算期	3月31日※
代表取締役会長兼CEO	南雲 忠信
代表取締役社長 タイヤ管掌	野地 彦旬
本社所在地	〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号

従業員数	18,465人（連結）
株主数	15,855人
発行済み株式総数	342,598,162株
連結対象子会社数	120社
持分法適用会社数	2社
上場証券取引所	東京、大阪、名古屋
事業展開をしている国・地域	日本、米国、カナダ、オーストラリア、ドイツ、フィリピン、台湾、中国、タイ、ロシア など
URL	http://www.yrc.co.jp

※海外決算子会社との決算期の統一などを目的に、2011年度より決算期を3月31日から12月31日に変更することを決定しました。

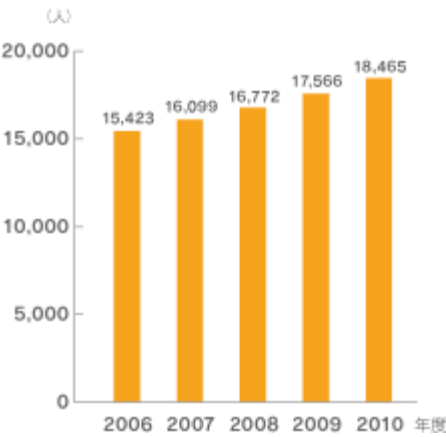
連結売上高・当期純利益



連結総資産・自己資本比率



連結従業員数



ステークホルダーへの経済的価値分配

ステークホルダー	分配額（百万円）		金額の算出方法
	2010年度	2009年度	
取引先	272,486	231,597	売上原価＋販管費（人件費を除く）
従業員	48,028	46,911	売上原価＋販管費（人件費）
株主	3,347	2,728	配当金の支払額
債権者	2,315	2,847	支払利息
政府・行政	3,996	2,569	法人税等
社会	83	16	寄付（交際費）その他＜高校・大学研究室＞
環境	10,171	8,798	環境会計「環境保全コスト」費用額
企業内部	10,576	8,758	当期利益－配当支払額

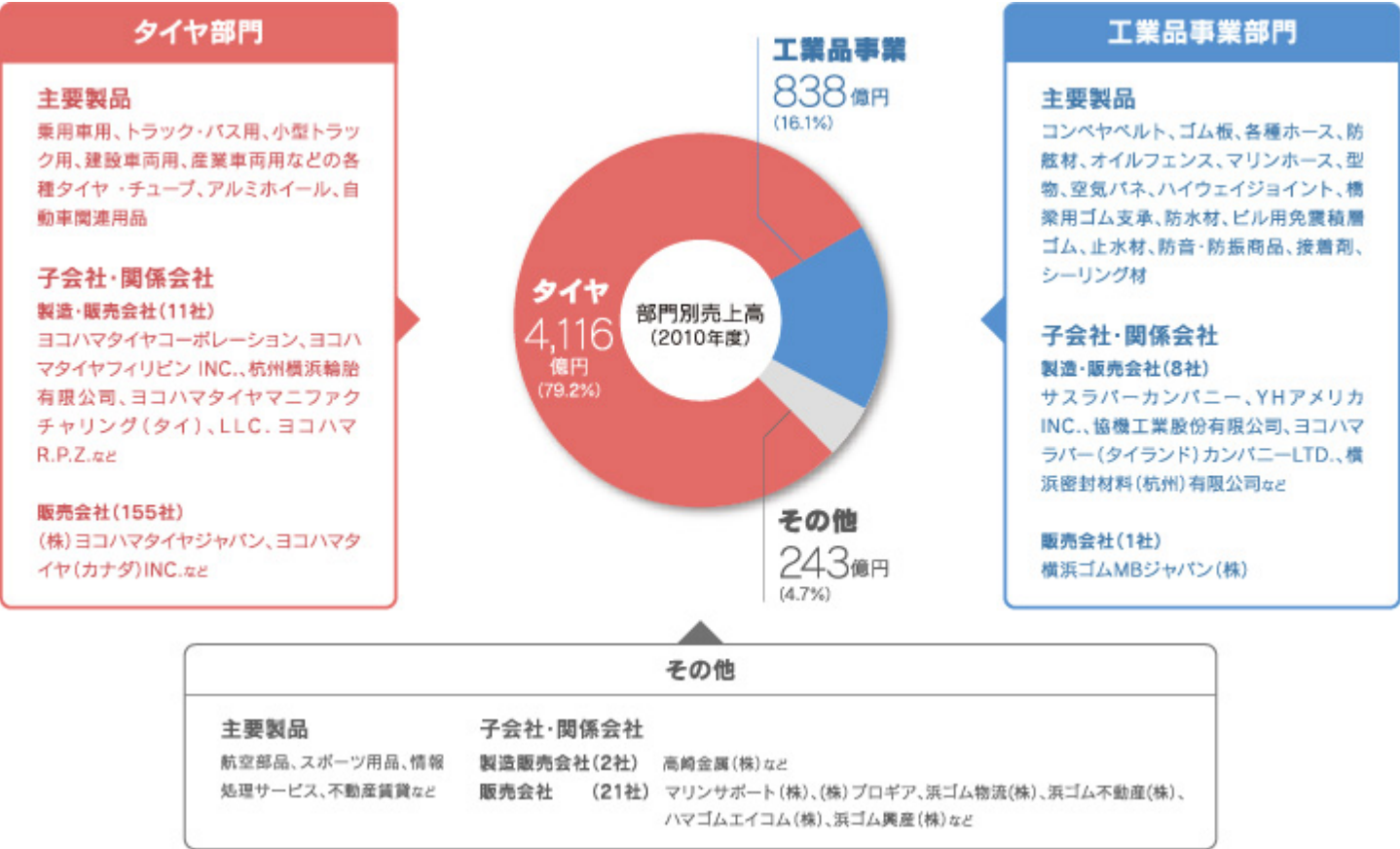
[ページTOPへもどる](#)

政府から受けた相当の財務的支援

2010年度の国、地方自治体から受けた税金や補助金の財務的支援の額は、寄付金を支出したことによる法人税等の減少で21百万円、半島振興法対象資産の特別償却による法人税等の減少で1.5百万円でした。

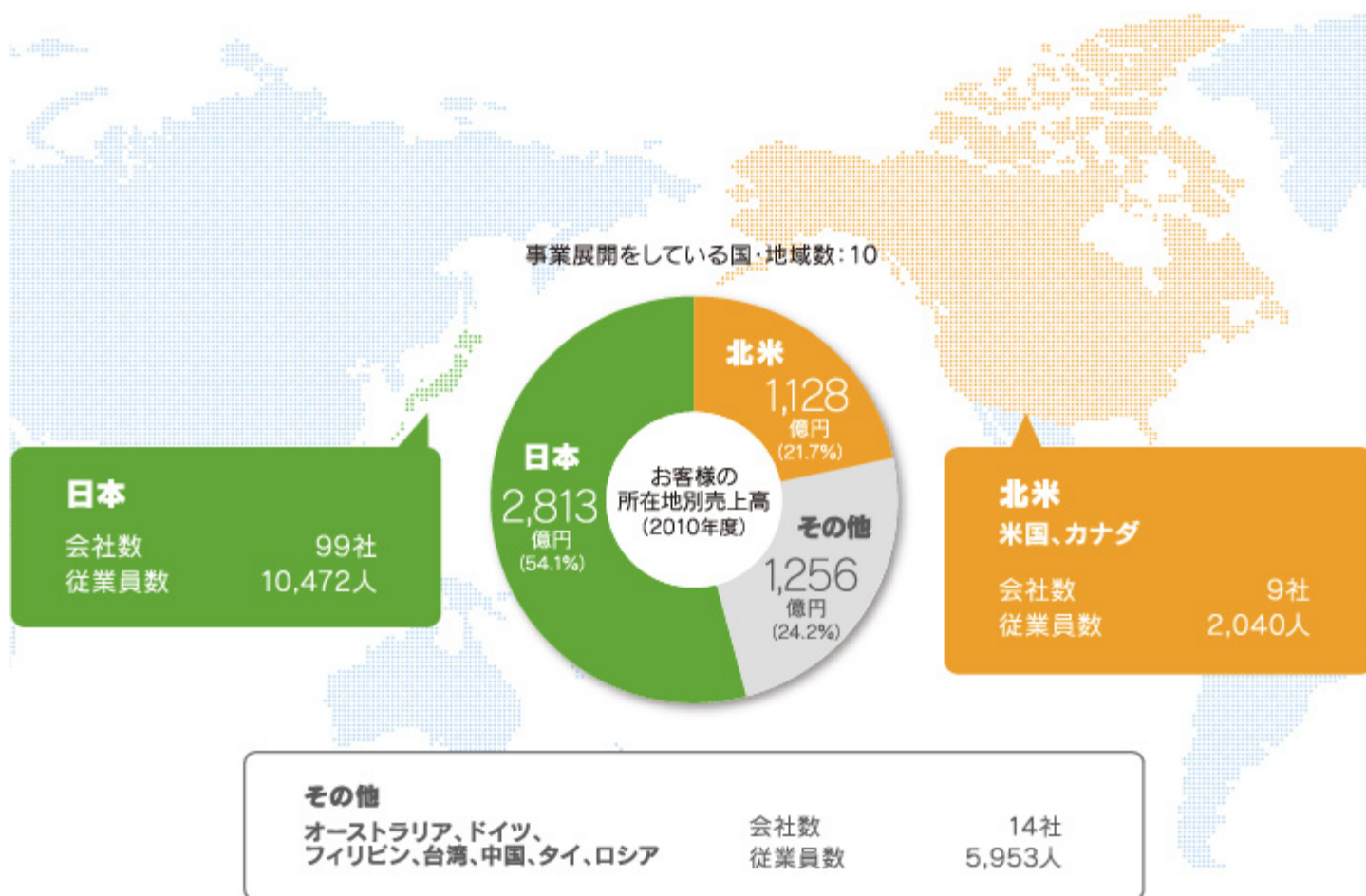
[ページTOPへもどる](#)

事業別主要商品とグループ会社



従来、セグメント区分を「タイヤ」と「MB」の2つとしていましたが、当期より会計基準によって会社内部の業績評価単位と同一の区分を使用することが必要となったため、変更しました。

[ページTOPへもどる](#)



[ページTOPへもどる](#)

会社概要・CSR経営

企業理念・横浜ゴムグループのCSR

企業理念とCSRへの考え方

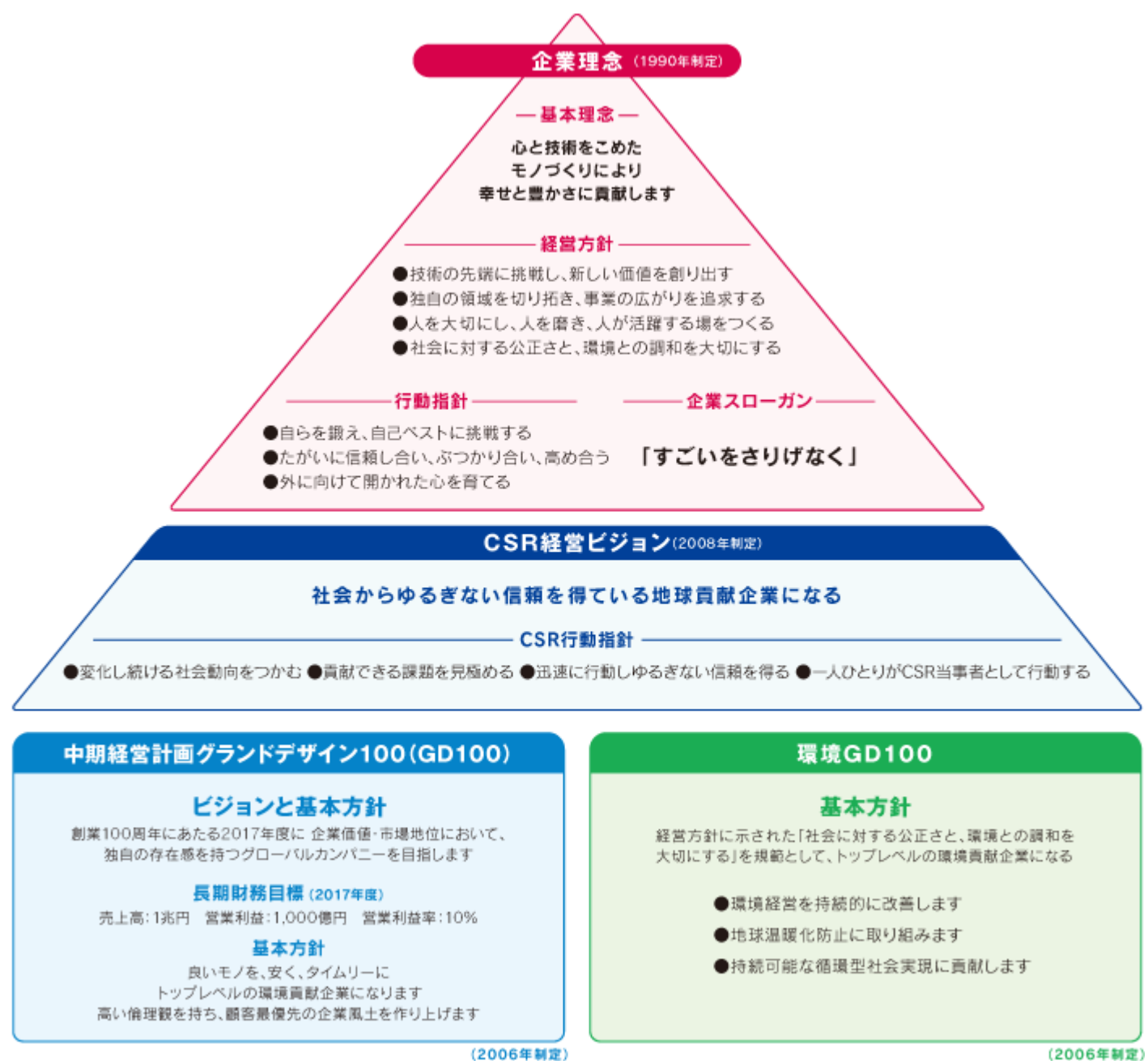
横浜ゴムは、1990年に企業理念を制定しました。企業理念は「基本理念」「経営方針」「行動指針」「企業スローガン」からなり、「基本理念」は将来に向けて、横浜ゴムが一貫してこだわり続ける目指すべき姿、「経営方針」は経営陣が自らに約束する経営の基本姿勢、「行動指針」は従業員一人一人が自らに課す行動規範です。

2006年には、中期経営計画「グランドデザイン100」を策定、2017年度に売上高 1 兆円のグローバルカンパニーになることを明言しました。そして基本方針には国際社会からの期待と要請を強く認識し、「トップレベルの環境貢献企業になる」「高い倫理観を持ち、顧客最優先の企業風土を作り上げる」を掲げ、CSR重視の姿勢を打ち出しました。2008年には社内の組織にCSR本部を設置し、CSR経営ビジョンを社内外に公表しました。「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」というビジョンには、「Corpor ate Social ResponsibilityのRを『責任』ではなく『信頼』と言い換えよう」、「なじみある言葉で理解し日々の行動につなげよう」という意思がこめられています。

なお、横浜ゴムは1929年、社長の中川末吉が横浜工場（横浜市鶴見区）開設に際して述べた訓話を「創業の精神※）」としています。これには今日のCSR経営に通じる社会性と経済性の両立がうたわれています。

創業の精神

- 一、生産事業は社会奉仕なり。すなわち人類生活の幸福増進を目的とするものなるがゆえに、良品を廉価に、便利なるものを提供するを目的とすべし。
- 二、優秀品を提供することを根本方針とし、また他の追従を許さざることを生命とすべし。
- 三、経営はあくまで公平親切を旨とすべし。公明正大なる経営者は資本に対する保証、労働者に対する分配、消費者に対する義務を公平に、いわゆる合理的分配を行うことによって、その任務とすべし。
- 四、機械力を充実して従業員をなるべく少なくすべし。これ能率向上の一要諦なり。
- 五、事業の成否は一生懸命熱心に勉強して、互いに向上発展を期せんとする努力の大小によるものなるがゆえに、大努力を試みるべし。



[ページTOPへもどる](#)

中期経営計画グランドデザイン100 (GD100)

横浜ゴムは2006年度から、中期経営計画のグランドデザイン100 (GD100) に取り組んでいます。GD100の目標は、創業100周年の2017年までに「企業価値・市場地位において独自の存在感を持つグローバルカンパニー」となり、売上高1兆円、営業利益1,000億円、営業利益率10%を達成することです。着実に成長していくため、2017年度までの12年間で3年ごとに4つのフェーズに分け、各フェーズでそれぞれテーマ、事業戦略、財務目標を設定しています。2008年度でフェーズIを終了し、現在、2011年度を最終年度とするフェーズIIに取り組んでいます。

フェーズIIで質の高い企業基盤を確立

フェーズIが終了したのを受け、2009年4月から新たにフェーズIIをスタートさせました。2009年度から3年間のフェーズIIでは「高質な成長」をテーマに、不透明な経営環境にあっても成長を持続できる質の高い企業基盤の確立を目指します。

2011年度は決算期を変更するため9カ月の短縮決算ではありますが、売上高4,710億円、営業利益210億円、営業利益率4.5%を目標にしています。

[ページTOPへもどる](#)

環境GD100

環境側面、社会側面が一体になったCSR／環境マネジメントを推進しています。

環境GD100の基本方針

経営方針に示された「社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする」を規範として、トップレベルの環境貢献企業になる。

- 環境経営を持続的に改善します
- 地球温暖化防止に取り組みます
- 持続可能な循環型社会実現に貢献します

環境GD100行動指針

未来からの贈り物である子供たちとかけがえない地球のために環境保護の行動をします。

グローバル環境経営を実践する

世界の全拠点で、高度で同質の環境経営を行います

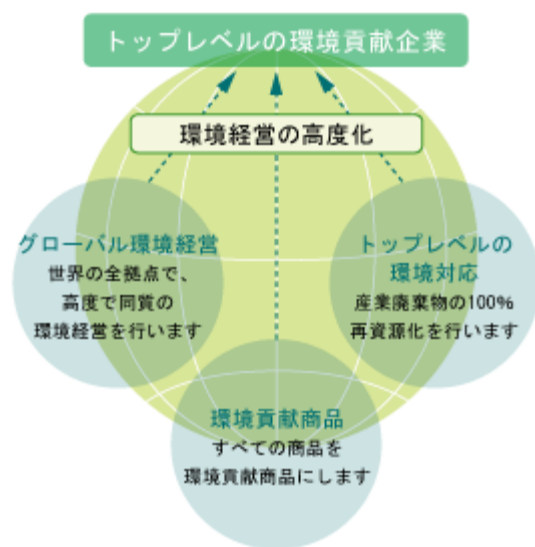
モノづくりにより社会に貢献します

すべての商品を「環境貢献商品」にする活動を実践します

「トップレベルの環境対応生産」を行い、社会的責任としての環境保護活動を実践します

産業廃棄物の100%再資源化を行います

社会や地域との相互コミュニケーションに努めます



[ページTOPへもどる](#)

横浜ゴムグループのステークホルダー

2008年のCSR本部設立以降、私たちは日々の取り組み、今後取り組むべきCSRの課題を整理し、ここに掲げるステークホルダーを選定しました。選定に当たってはGRIガイドライン、ISO26000、日本経団連企業行動憲章などを参考にしています。

お客さま

心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献します、という基本理念は、お客さまに向けた私たちの宣言です。私たちはお客さま最優先の企業風土をつくることを目指しています。

従業員

働く人の人権や安全に配慮し、能力を存分に発揮できる環境を整えることでこそ、企業の持続的発展が可能になると認識しています。経営方針に「人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場を作る」と掲げています。

取引先

私たちは多様な取引先から原材料、部品、設備などを調達することによって、事業を展開しています。取引先と公正、かつ自由な取引を行い、共存共栄の関係を築いていきます。

株主・投資家

私たちは技術の先端に挑戦し、新しい価値を創り出すことで、持続的な成長を実現し、適正な利益の還元を行います。同時に、適正な情報開示を行い、株主・投資家の皆さまの期待に応えます。

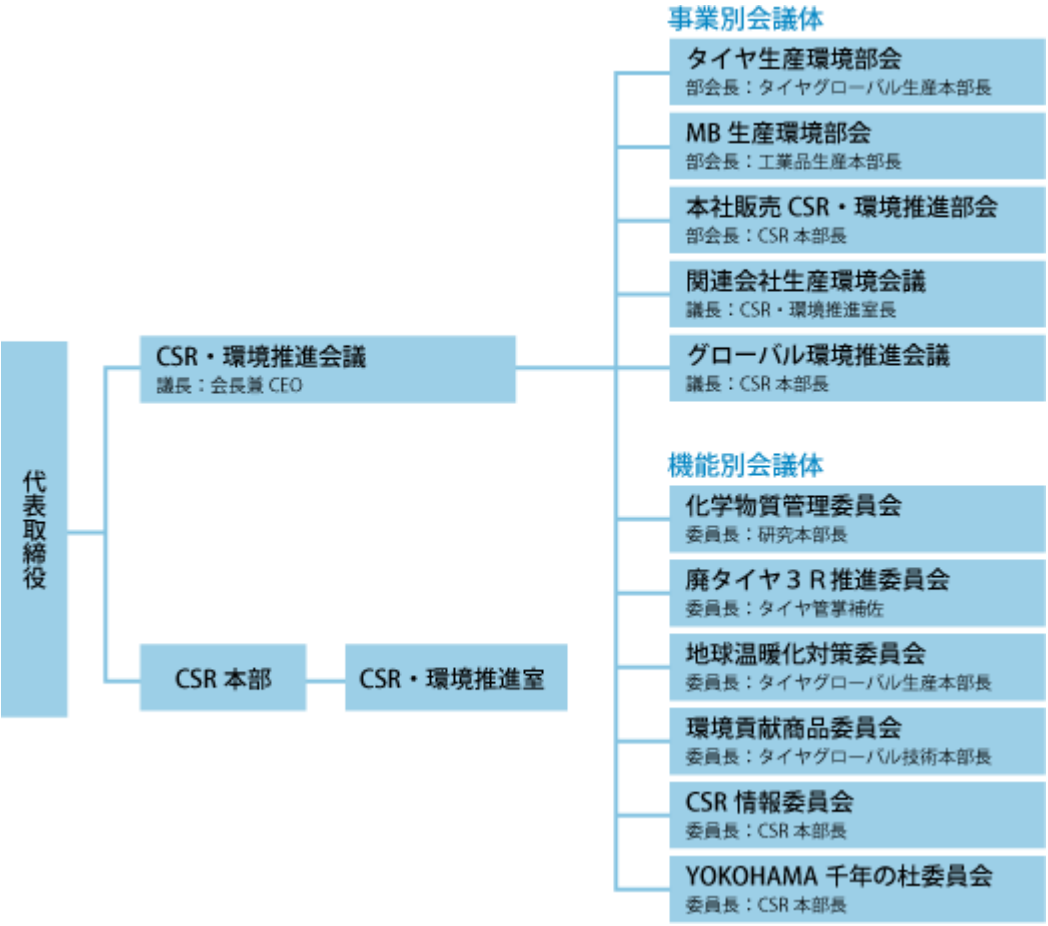
地域社会

グローバルに事業を展開する私たちは、環境や法律、文化、習慣、経済などの面で地域社会と関係を持っています。国内外事業所の地域社会と良好な関係を築くことに努めています。

[ページTOPへもどる](#)

CSR・環境経営推進体制

会長兼CEOが議長を務めるCSR・環境推進会議を年に2回開催します。社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になるため、横浜ゴムグループが取り組むべきCSRの課題について立案・検討する体制を整えています。この会議の下部組織として3つの部会、6つの委員会、2つの会議を設け、当社におけるCSR・環境活動を推進しています。毎年11月には、CSR・環境推進会議において、横浜ゴムグループのCSR活動のパフォーマンスを評価し、次年度の改善に結び付けています。また世界の全拠点で、高質で同質の環境経営を行うことを目指し、海外全生産拠点の経営責任者による「グローバル環境推進会議」を年1回開催しています。2010年度は12月21日に行われ、海外の全生産拠点及び主要販売子会社から21名が参加。当日はCSR・環境活動の推進について議論が行われました。2011年度は、さらなるCSR活動の推進および高質で同質の環境経営の実現を目指し、取り組みを進めていきます。



(2011年6月29日)

[ページTOPへもどる](#)

CSR・環境中長期計画

ISO26000の中核主題を基に、横浜ゴムが取り組む7つの重点課題を決定しました。
各課題について、中長期および単年度目標を定め、PDCA管理をしていきます。

[CSR環境中長期計画についてはこちらをご覧ください。](#)  (107KB)

[ページTOPへもどる](#)

[横浜ゴムCSRサイト TOP](#) > [会社概要・CSR経営](#) > [製品紹介](#)

会社概要・CSR経営

横浜ゴムグループの概要

企業理念・横浜ゴムグループの
CSR

製品紹介

会社概要・CSR経営

製品紹介

モノづくりによる環境貢献 こんなところに横浜ゴム！！

横浜ゴムの製品は、縁の下の力持ちとして、社会のあらゆるところで皆さまの暮らしを支えています。

※項目をクリックすると説明に移動します。



新幹線用八二力ム構造床材

新幹線の車両用床材に使われている蜂の巣状のアルミ箔材を2枚のアルミ板ではさんだサンドイッチ構造のパネル。軽量かつ優れた強度を備え、航空機、リニアモーターカーなどの構造材としても使用されています。



車いす用除圧機能付きエアースелクッション「Medi-Air1」

車いす用空気式のクッションです。エアセルが自動的に膨らみ、座面を浮上させることで、体重が集中する部分の圧力を低く保ち、接触面を増やして圧力を分散させます。



プラスチック用コート材

携帯電話やゲーム機表面のプラスチック素材を保護するコート材。傷のつきにくさと強靱性の両立を実現しています。



エコファインレックス

フォークリフトやショベルカーなどの建機に使われる環境対応油圧ホース。塩素フリーの素材を使用しているので、ダイオキシン発生の心配がありません。日本の建機は海外で多く活躍しており、現地でのホース取り替えも今後さらに拡大していきます。



自動車用／建築用接着剤

ヘッドランプ・ブレーキ・シートなどに使用される自動車用、屋上・複層ガラス・床などに使われる建築用の接着剤。大気汚染や人体への影響が懸念される溶剤を使用しない製品や、リサイクル性の高い製品の開発にも積極的に取り組んでいます。



タイヤ

乗用車用タイヤ

スポーツカー、セダン、SUV、RVなどさまざまな車種に合わせたラインアップで、多様化するドライバーの幅広い要求を満たします。



トラック&バス用タイヤ

経済性、耐久性、安全性などの基本性能はもとより、季節や路面状況などの使用条件にマッチしたラインアップをそろえています。



建設車両用タイヤ

超大型ダンプトラックや土砂の地ならしをするスクレーパー、採鉱場やダム建設現場で土砂を運ぶホイールローダー、排土作業を行うドーザーなどに使用されるタイヤです。



高圧水素ガス用ホース

次世代の自動車として注目を浴びる燃料電池自動車に水素を充填するディスペンサー用ホース。岩谷瓦斯（株）との共同開発で、軽量で柔軟性に優れ、運搬や充填作業がしやすいのが特徴です。



免震ゴム

地震の力を吸収し、建物に伝わる地震エネルギーを抑える免震ゴム。高速道路を支える柱や住宅に使用されています。



ゴルフ用品

横浜ゴムならではの優れた設計技術と、航空・宇宙分野で培われてきた最先端の素材技術を駆使した、斬新かつ個性的で使用する人に快適な製品を揃えています。



マリンホース

沖合に停泊中のタンカーまで原油を輸送するためのホース。海中への油漏れが発生しないよう、優れた耐久性を実現しています。



航空機用ウォータータンク

航空機の飲料水を入れるタンクです。樹脂繊維を特殊な製法で固めた製品で、軽量化による航空機の燃費向上に貢献しています。



B737 ラバトリーモジュール

航空機の中に搭載する化粧室ユニット。メンテナンスのしやすさを重視し、消費電力が少なく耐久性に優れるLEDを間接照明に採用。軽量化を実現することで機体の燃費改善に貢献しています。



太陽光発電用パネルシール材

ソーラーパネルに使われる部品同士を接着し、発電効率低下の原因となる内部への湿気侵入を防止しています。



ハマハイウェイジョイント

高速道路や橋など、道路の継ぎ目として使用されています。増加する交通量、車両の大型化など過酷な使用条件にも耐えうる構造の伸縮装置で、騒音防止にも役立っています。



[ページTOPへもどる](#)